

千葉県畜産総合研究センター第64回試験研究成果発表会（畜産部門）

日 時 令和8年10月27日（火） 午前10時30分～午後3時30分

場 所 東金文化会館 小ホール
（東金市八坂台1-2107-3 / 0475-55-6211）

＜養豚・養鶏部門／総合討論＞ 10:30～12:00

発表1 情報提供

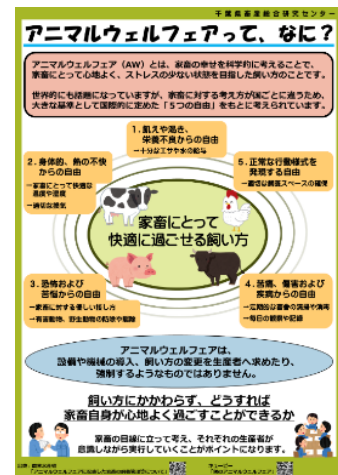
アニマルウェルフェアな卵は買ってみたい？

— 消費者への認知度アンケートと生産現場の聞き取り調査 —

養豚養鶏研究室 藤平 涼央

消費者を対象にアニマルウェルフェアに関するアンケート調査を行ったところ、認知度は低い傾向を示しましたが、内容を理解した上で、価格の高い対応卵の購入を検討する結果も同時に見られました。また、平飼いを営む養鶏農家への聞き取り調査においては、「尻つつき等の悪癖の問題」が、現状で最も大きな懸念事項であることが分かりました。

消費者アンケートに用いた啓発ポスター



発表2 情報提供

貴重な遺伝子を継承するキメラ鶏誕生！

— 始原生殖細胞を用いた遺伝資源の保護 —

養豚養鶏研究室 本多 正隆

青殻卵を生産する鶏の胚から、将来精子や卵子になる始原生殖細胞を採取し、別の品種の胚へ移植することで、青殻卵を生産する鶏の遺伝資源を再生できます。この方法で、異なる品種由来の細胞が同一個体内に混在するキメラ鶏を作出しました。今回は、キメラ鶏の作出効率を高めるため、受け手となる胚へのγ線照射の有無が及ぼす影響を調査しました。



発表3 成果発表

日本版アニマルウェルフェアに配慮した豚のストレス緩和法の検討

養豚養鶏研究室 細野 真司

世界が求めるアニマルウェルフェア。日本の畜産現場でも対応が急がれる中、生産性との両立が課題となっています。本調査では、農林水産省の指針が示す「子豚の管理方法（去勢・断尾・歯切り）」に注目！指針で推奨される事項が、子豚の生産性にどんな影響を与えるのかを検証しました。



＜飼料作物・酪農・肉牛部門／総合討論＞ 13:10～15:30

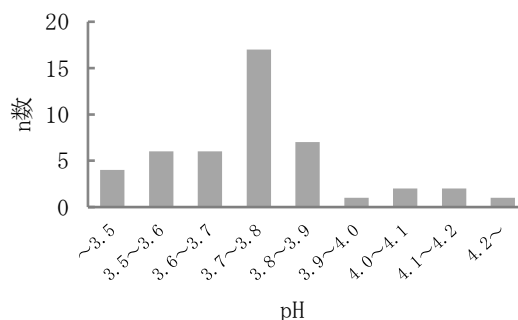
発表1 情報提供

自給飼料分析センターの分析値から見るサイレーシ調製のポイントと分析センター活用事例 企画環境研究室 岡庭 就祐

「サイレーシの一般成分を把握するためだけに自給飼料分析センターを活用していませんか？」活用方法によっては新たな普及活動の一助になるかもしれません。そこで、これまで依頼のあった興味深い活用事例についてご紹介します。加えて、これまで分析を行った結果から見えた、サイレーシ調製のポイントについてもご紹介します。



野草（稲わらの代替となるか?!）



トウモロコシサイレーシの pH のばらつき

発表2 情報提供

飼料用トウモロコシ用の不耕起播種機を利用した飼料用オオムギの播種実証の紹介 企画環境研究室 名取 美貴

飼料用トウモロコシ用の不耕起播種機が、畑地における飼料用オオムギに応用できるか実証規模で検討しました。プラウおよびロータリ耕、ツースハローによる整地、ローラーによる鎮圧の順に準備を行った後、不耕起播種機により飼料用オオムギを播種しました。生育状況や汎用型微細断飼料収穫機での収穫風景、収量についてご紹介します。



発表3 成果発表

未利用資源や低品質粗飼料の代替利用における乳生産への影響

乳牛肉牛研究室 小林 大誠

不安定な飼料情勢に対応するため、泌乳中後期牛で①配合飼料の 20% 及び 30% を麦茶粕サイレーシに代替、②全飼料の 15% 及び 30% をイタリアンライグラスストローに代替した給与試験を実施しました。その結果、いずれの試験でも乳量はわずかに減少したものの、主要な乳成分や収益性には大きな差はなく、代替利用が可能であることがわかりました。



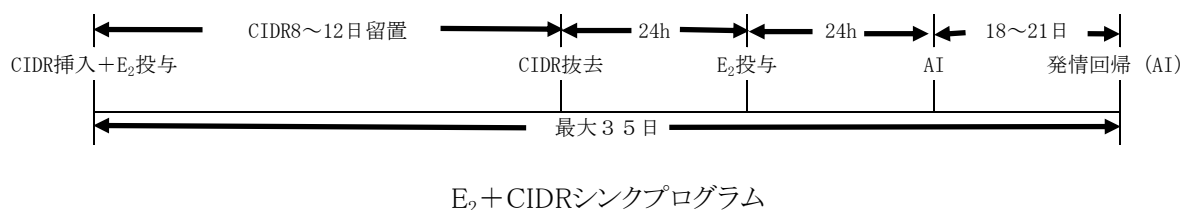
麦茶粕サイレーシの嗜好性は？

発表4 成果発表

卵巢静止の乳用種未経産牛における効果的なエストラジオール製剤併用 CIDR シンクプログラムによる繁殖成績改善効果の検討

市原乳牛研究所 小高 宏貴

卵巢静止の乳用種未経産牛を供試し、エストラジオール製剤併用 CIDR シンクプログラムの留置期間（8～12 日間）と繁殖成績の関係を調査しました。プログラム処置後の黄体形成率と、1 回目の人工授精で不受胎であった牛の発情回帰率が高いことから本プログラムは未経産牛の繁殖成績の改善に有効であると考えられました。また、CIDR の留置期間は、8～10 日間で受胎率等の成績が良好で、11 日以上留置すると早期排卵による人工授精実施率の低下がみられました。

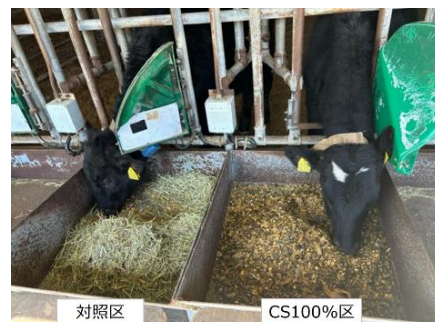


発表5 成果発表

交雑種去勢肥育牛における自給飼料を活用した肥育期間短縮技術の検討

乳牛肉牛研究室 山内 麻莉

交雑種去勢牛肥育において、トウモロコシサイレージ（CS）を活用した肥育方法を検討するため、肥育前期（7～12 ヲ月齡、粗濃比 40:60）の粗飼料 NDF 中の全量および半量を CS に代替して、飼養試験を行いました。その結果、CS への全量代替でも、発育や枝肉成績等は遜色なく、24 ヲ月齡での早期出荷が可能であることが確認できました。



給与試験の様子

【お問い合わせ先】

千葉県畜産総合研究センター 電話：043-445-4511 FAX：043-445-5447

千葉県農林水産部畜産課 電話：043-223-2939 FAX：043-222-3098

発表予定時刻等は千葉県畜産総合研究センターホームページ

(<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-chikusan/>) をご覧ください。